

委員による二次評価まとめ（令和5年度事業の評価）

令和6年(2024年)8月1日
横須賀美術館運営評価委員会
資料2

I 美術を通じた交流を促進する

【集客・交流推進】

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔広報〕

達成目標	・年間観覧者数 118,000人以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		S	S	
小林委員長	S	・横須賀美術館を横須賀市の貴重な都市資源であるとした捉え方は重要であり、そうした視点に立脚しての有効活用についての考え方を評価する。		
菊池委員	S			
柏木委員	S	・ジブリ展の入場者数を加えなくても、目標を大きく超えた点を評価します。		
関口委員	S	・ジブリ展などの開催により多くの露出及び集客に務められていると考えます。		
三浦委員	S			
倉田委員	S			
前波委員	S	・目標観覧者数を大幅に超えて多くの方が来ている。 ・達成目標の人数設定の根拠について、どこかに記載がありましたらお知らせください。		
実施目標	・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 ・美術館のイメージアップにつながるようなTV放送、雑誌取材、プロモーションビデオ撮影などの商業撮影、取材を受入れる。	(前年度)	1次評価	2次評価
		S	S	
小林委員長	S	・様々な広報媒体の特性を活かし、効果的な広報活動の実施に向けての、各種イベントの開催を含めた前向きな働きかけを、評価したい。		
菊池委員	S			
柏木委員	S	・館の魅力を総合的にアピールする新たな取り組みに着手した点を評価します。		
関口委員	S	・各媒体での販促活動を行われていると考えます。		
三浦委員	S			
倉田委員	S	自身も発信力のある若年層に向け、積極的に横須賀美術館の魅力をアピール出来るSNSの活用は大変有効であると思います。芸術系大学へのアプローチもいつも気になっておりましたが、チラシやポスターを送付され、掲出依頼をされているとのこと、ぜひ続けて頂きたいです。		
前波委員	S	・市内では広報物を度々目にする機会がある一方で、勤務先の横浜市内で目にする機会が少なかったように思う。横須賀市近郊の方にも知っていただく機会が広がると良いと感じた。		

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

〔市民協働〕

達成目標	・市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加者数 延べ1,700人		(前年度)	1次評価	2次評価
			F	C	
小林委員長	C				
菊池委員	C	・目標達成が天候に左右されたことが残念ですが、やむを得ずC。			
柏木委員	C				
関口委員	C	・地域イベントより活性化させていただければと考えます。			
三浦委員	C				
倉田委員	C	・天候に恵まれずイベントが縮小されたことは残念でした。それだけが目標を達成できなかった理由であれば、問題ないような気も致します。			
前波委員	B	・参加者数は1700人に達していませんが、必ずしも人数だけでなく長く続けているかどうか、新規の方がどのくらい増えたか等の視点もあると良いかと思いました。			

実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。		(前年度)	1次評価	2次評価
			F	B	
小林委員長	B				
菊池委員	B				
柏木委員	A	・前年度よりも着実に参加者も増え、ポスト・コロナの取り組みを推進できている点を評価します。			
関口委員	B	・横須賀市民の皆様へ向けにお子様向けイベントを更に増やすことが出来ればと考えます。			
三浦委員	A				
倉田委員	B	研修での学びや、その学びを活かす場として、市民の生涯学習の場として機能しているとのこと、大変素晴らしいです。			
前波委員	B	・スカビ隊の皆さんのイベントはいつも楽しそうで参加したいと思える企画でした。内容の充実は素晴らしかったように思います。ギャラリートークについては参加したことがなくコメントできず申し訳ありません。資料を拝見すると活動日も多く皆さんの頑張りぶりが伝わってきます。イベントは、1月頃に1年分まとめて決定しているのでしょうか。各回のイベントの検討会も大切な活動の一つだと思いますので、活動記録に追加しても良いかと思いました。(見落としていたらすみません)			

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

【社会教育】

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

〔展覧会・教育普及〕

達成目標	企画展の満足度 80%以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・要素別の満足度も高い数値で安定しており、Sに近いAと評価します。		
関口委員	A	・首都圏マーケットへ向けて広範囲のお客様獲得へ向けて企画展を行っていただきたいと考えます。		
三浦委員	A			
倉田委員	A			
前波委員	A			
実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を収集し、図書室で整理・保管し利用者の閲覧に供する。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	
小林委員長	A			
菊池委員	A	・所蔵品展の「解説」に対する満足度が、R4から急に低下しているが、何か原因があるのか。(R3 86.3%→R4 72.0%→R5 71.3%)		
柏木委員	A	・館独自の企画展を含む多彩な取り組みにより、館の個性が発揮できたと思います。		
関口委員	A			
三浦委員	A			
倉田委員	A			
前波委員	A	・毎回、展示に合わせた図書の選書も楽しみにしております。児童生徒造形展については、生徒・その家族の来館を促し、今後の来訪のきっかけにもなるのでよい取り組みだと思います。 ・企画展のテーマが幅広く、あまり美術に詳しくなくてもさまざまなジャンルを観覧する機会となりいい。		

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。				〔若年層への教育普及〕		
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人			(前年度)	1次評価	2次評価
				C	B	
小林委員長	B					
菊池委員	B	・あと少しで目標達成数値でしたが、やむを得ずB。				
柏木委員	B					
関口委員	B					
三浦委員	B					
倉田委員	B					
前波委員	B					
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。 ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、先生のための美術館活用講座をはじめ、教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。			(前年度)	1次評価	2次評価
				A	A	
小林委員長	A					
菊池委員	A					
柏木委員	A	・前年度より観覧者数も増えて、改善すべき点を洗い出し取り組んでいる点を評価します。				
関口委員	A					
三浦委員	A					
倉田委員	A					
前波委員	A	・保育園児向けの遊びを交えた活動、対話による鑑賞など、年齢に応じた鑑賞にもたいおうされていて素晴らしいと思いました。 ・中学生の感想で「つまらないけどおもしろかった」とあったが、これまで美術に関心のなかった子が、美術に触れ、つまらない、そして面白いという感想を持ったのは大きな意味があると思った。今後も引き続き、幅広い子どもたちに美術に関わる機会を提供できると良いと思いました。				

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。			〔収集管理〕		
達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)		(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A	
小林委員長	A				
菊池委員	A				
柏木委員	A				
関口委員	A				
三浦委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A				

実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・作品の保管、展示について適正な環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。		(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A	
小林委員長	A	・次年度の課題として、作品データベースの公開と、画像データの管理方法の検討を考えておられるようですので、検討の成果を楽しみにしています。			
菊池委員	A				
柏木委員	A	・今後の継続的な購入による収集に期待いたします。			
関口委員	A				
三浦委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A	・細かく管理状況の記録があり大変わかりやすかった。			

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[メンテナンス・来館者サービス]

達成目標			(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A	
・館内アメニティ満足度 90%以上 ・スタッフ対応の満足度 80%以上					
小林委員長	A				
菊池委員	A				
柏木委員	A				
関口委員	A				
三浦委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A				
実施目標			(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A	
・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、附帯施設(レストラン及びミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。					
小林委員長	A				
菊池委員	A				
柏木委員	A				
関口委員	A				
三浦委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A				

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。				〔バリアフリー〕		
達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ175人以上		(前年度)	1次評価	2次評価	
			A	S		
小林委員長	S					
菊池委員	S					
柏木委員	S					
関口委員	S					
三浦委員	S					
倉田委員	S					
前波委員	S					

実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくりの)ための各種事業を行う。 ・必要に応じて、触察図など鑑賞補助ツールを用いながら、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。		(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A	
小林委員長	A				
菊池委員	S	・部分拡大触図の制作をはじめ、様々な面できめ細かな配慮がうかがえる。			
柏木委員	S	・対面WSも再開し、ポスト・コロナの取り組みを着実に推進している点を評価します。			
関口委員	A				
三浦委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A	・美術館で託児サービスがあるのは子を持つ母にとっては大変ありがたいです。一方利用者があまりいないのはサービスについて知られていないのか、ニーズがないのか、気になりました。			

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。				〔経営的視点〕	
達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、過去2年間の平均値を目安とする。		(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A	
小林委員長	A				
菊池委員	A				
柏木委員	A				
関口委員	A				
三浦委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A				

実施目標	・職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。		(前年度)	1次評価	2次評価
			A	A	
小林委員長	A				
菊池委員	A	・サービスの低下や快適さを阻害することなく、バランスの取れたコスト意識の共有が保たれている。			
柏木委員	A				
関口委員	A				
三浦委員	A				
倉田委員	A				
前波委員	A				

・令和5年度 横須賀美術館運営評価の方法について					
小林委員長	○	・令和五年度の実施・達成目標設定の課題が、既存の価値観に固執することなく、状況に応じた検討を考慮し設定されていることを鑑み、評価する。			
菊池委員	○				
柏木委員	○				
関口委員	○				
三浦委員	○				
倉田委員	○	美術館運営に携わる皆様の、多岐にわたるご尽力を知る機会を頂きありがとうございます。			
前波委員	○	・評価委員会であり多く意見が出てこないのは少し気になりました。皆様のお取り組みが幅広く限られた時間で進めていく必要があると思いますが、例えば、部屋を出て館内を回ってみる、新たな取り組み、重要な取り組みでについては実際にその場に行ってみるなど、実際にその場で見てみる時間などあれば、具体的な疑問や意見もでてくるのかと思いました。本当に素晴らしい取り組みを数多くされているので、体感できるものがあれば是非と思います。			